令和３年度第２回　独立行政法人農業者年金基金資金運用委員会　議事概要

１．開催日時

令和４年２月１８日（金）１５：００～１６：０５

２．開催場所

Ｗｅｂ会議システム（事務局は独立行政法人農業者年金基金特別会議室から説明）

３．出席委員

・明田 雅昭 委員長 ・菅原 晴樹 委員 ・徳島 勝幸 委員 ・枇杷 高志 委員

（全委員がＷｅｂ会議システムによる出席）

４．議事

（１）報告事項

外国債券ベンチマークへの中国国債組入れに係る対応について（報告）

（２）審議事項

被保険者ポートフォリオにおける政策アセットミクスの変更について

５．概要

（１）外国債券ベンチマークへの中国国債組入れに係る対応について（報告）

中国国債のベンチマークへの組入れが36か月にわたり段階的に行われること、及び現時点における制度面を含む流動性の観点から、中国国債への投資は当面見送ることが事務局から報告された。

〔委員からの主な意見等〕

当面の対応として違和感はない。今後、トラッキングエラーの推移や中国国債を巡る制度的な環境変化等をモニタリングしていく必要がある。

（２）被保険者ポートフォリオにおける政策アセットミクスの変更について

令和３年度第１回資金運用委員会（令和３年６月開催）での議論やその後の主要国の金融政策の変化等を踏まえ、事務局から国内債券56%、国内株式12%、為替ヘッジ有り外国債券20%、外国株式12%に変更することが提案され、加入者からの理解を得られるよう努めることを前提に、了承された。

〔委員からの主な意見等〕

① 大きな方向性に違和感はないが、加入者の得心という点で、為替ヘッジ有り外国債券の投資対象が相対的に信用力の高い国債のみで構成されており優良なものであるというだけではなく、加入者にとってよりわかりやすい説明となるよう工夫

が必要である。

② 最終的な結論に異論はないが、次のとおり注意すべき点がある。

・ 今般の政策アセットミクスの変更については、国内株式及び外国株式の保有割合がいずれも12%であるが、所謂ホームカントリーバイアスがかかった状態であり、これらの割合について今後検討していく必要がある。

・ 為替ヘッジ有り外国債券の保有割合の引上げに伴う運用の効率性の改善については、相関に依るものであることに留意する必要がある。

・ 現在、日本銀行の金融政策を受けて暫定的に行っている国内債券のバーベル運用については、年限構成がベンチマーク（野村BPI総合）と異なることから、そのパフォーマンスは今後の金融政策等に大きく影響を受けることとなる。今後の政策アセットミクスにおいてもバーベル運用を継続するか、ベンチマークを前提とするかについては検討が必要であると考える。

〔資金運用委員会委員長による議論の整理（まとめ）〕

○ まず、令和３年度第１回資金運用委員会（令和３年６月開催）において、国内債券の代替としては為替ヘッジ有り外国債券が有効であること、内外株式の保有割合の引上げを行った場合には運用の効率性が低下すること等を確認し、次回の資金運用委員会においては、政策アセットミクス変更の実施可否を議論することとした。

○ このため、本日の当委員会開催に当たり、事務局においては直近の主要国における金融政策や市場動向等を踏まえた金融経済シナリオを複数用いてシミュレーションを行った。その結果、いずれのシナリオにおいても、令和３年度第１回資金運用委員会の検証結果同様、国内債券の保有割合の引下げ及び為替ヘッジ有り外国債券の保有割合の引上げにより、運用の効率性が改善することを確認した。

○ その一方、昨年度に実施した加入者アンケートの結果によれば、回答者の半数近くが現在よりもリスクの抑制を期待していることなどから、現実的な対応としては、国内債券は50%以上を保有し、為替ヘッジ有り外国債券の保有割合は20%程度とすることについては妥当なものと考える。

○ 本日の審議を踏まえ、当委員会としては、被保険者ポートフォリオにおける政策アセットミクスの変更について、事務局からの提案のとおり了承する。

○ なお、政策アセットミクスの変更に伴う資産の入替えについては、主務大臣からの変更認可を前提に、令和４年度第１四半期を目途に実施することを併せて了承する。

（以上）